

事業名 臨床における全人的ケアの教育プログラム

(趣旨) 治癒を目的とした治療が望めなくなった末期癌の患者に対するケアは、癌の病態だけでなく一個人としての人格をもみていくことが大切です。

病状を緩和すると共に患者の心のありよう、あるいは生活の質の向上をも念頭おいた、全人的ケアです。

そのために、終末期医療に従事している医療者は医療のスペシャリストであると同時に死と向き合っている患者に、一個人として真正面から関わっていく感性が求められます。

それはマニュアルで手軽に学べるものではなくこれに関わる人々が、自分との対話を繰り返しながら培っていきます。

(内容) 実践したケースをどうして、患者はどう感じていたか、それに対して自分はどのように考え答えたのか、これまでの症例検討とは全く違った方向からのアプローチをまなびます。苦しんでいる患者の尊厳はどのように接することで保たれるのか、そして自分はどのように考え生きていこうとしているのかをこのプログラムで学びます。

(対象者) 終末期医療に従事しているスタッフ(医者、看護師、ヘルパー、保健婦、薬剤師、SW、PT)、宗教家、カウンセラー、医療ボランティア等。

(講師) スーパーパイザー、齊藤武講師(宮崎市郡医師会病院緩和ケアカウンセラー、東京女子医大糖尿病センターチャプレン)

(研修日程) 一カ年(2002年5月~2003年3月)に10講座

月1回(但し4月と8月を除く)、第3土曜日	午後4	時~6時半
5月18日	6月15日	7月20日(祭日)
9月21日	10月19日	11月16日
12月21日	1月18日	2月15日
3月15日		

(定員) 50名程度

講座方法

(第1回) 5月19日(土)時間 PM16時~19時 場所宮崎市市郡医師会講堂

参加者 35名(看護師28名 医師1名 薬剤師1名 ヘルパー 5名)

提案者 2名(医師1名 看護師1名)による症例

当人達が患者の心に対応していく中で、受けた悩みを受講生が共に考え意見を述べあう。全員の気持ちが大変なところで、講師は本人に対しカウンセリングをしていく。処用時間1症60分の目安で進行していきます。

本日の講師のアドバイス

先生と患者の間には、すごいみぞを感じる。緩和ケア病棟にいる医師たちには、そういう人が多いと思う。患者は自分の命のことをいつも考えている。元気な他人にはわかりにくい、しかし医師として、そこをうめあわせる努力、受け止める努力が必要である。患者は医療者などに期待している。その期待は何なのか考えて、わからなければ聞いて期待に応えていくと言うことが課題である。

(第2回) 6月16日(土)時間 16時~19時 場所 前回と同じ

参加者 28名(看護師23名 医師1名 ボランティア2名 理学療法士2名)

提案者 県立日南病院A看護師 県立宮崎病院B看護師 の2名の症例

訪室を嫌がる患者に対し、処置やケアなどを1回で終わらせ、最低限の訪室とした。声掛けができない時が度々である。が家族や面会者が在室中は別人の表情となり、変貌に戸惑う。患者は終末期をむかえ、思考も充分できない。精神的関わりの中で気持ちを理解していたのか、寄り添っていたのか、家族への関わりは良かったか、B看護師は残された時間を家族を支え家族と共に、関わっていこうと思った。(本人評価)

(第3回) 7月21日(土)時間 16時~19時 場所 前回と同じ

参加者 28名(看護師26名 ボランティア2名)

提案者 県立宮崎病院看護師2名の症例

症例 60歳男性である

会話記録からの講師のアドバイス

患者さんとの会話でムツとする様な事があるとそれは患者さんの気持ちのはけ口になっているのだろうと、同僚とはなしたことは本当に患者の気持ちが解っていないと思う。末期の人の気持ちを思うことは尊厳にもつながる。この患者さんは、とても貴重なことを残る人々に伝えていると思う。良い症例であるとおもいます。

(第4回) 9月15日(土)時間 16時~19時 場所 前回と同じ

参加者 29名(看護師28名 一般1名)

提案者 富養園 看護師1名の症例

症例 65歳の女性である

本人説明のあと、講師より全員へ出題者に対して素直に感じたことを、1つずつ意見を聞かれる。

ある人は、本人に対していらだちをかんじた。全体的に何を言いたいのかわからない。本人は患者を一般の患者と差別した見方をしていると思った。私は本人の気持ちに同情した。気持ちを伝えるための範囲が広がってしまって、わからなくなった。

本人から - みなさんの意見を聞いた時の感情は、素直にいった後味がわるかった。
みなさんは、このような事実を知らないから事実をのべた。
カウンセリングの意見により、アル中から立ち直った人（一般の男性）の意見 -
カウンセリングを受ける時は、傷つけられそれはいつわりのプライドだから、お
ちこんだ時に立ち直れるのですよ。頑張ってください。
講師から - 精神科の患者を看ているプロなんだなと思った。この母子を逢わせてあ
げなければ、という気持ちにかられたのかな
最後に、同情した人へ 本人を抱いてあげてください。
本人は感動して涙になる。

（第5回）10月20日（土）PM16時～19時 場所 前回と同じ

参加者 24名（医師2名 薬剤師1名 ヘルパー1名）

提案者 愛和病院 看護師1名 迫田病院 看護師1名による症例

講師から 家に帰りたくても帰れない患者、家族が受け止めてくれないはがゆさ
を感じる本人がいる。家族は何を思って拒否をしているのか？聴くところ
から始めたら。スピリチュアの問題（本人のスピリチュア、患者のスピ
リチュア）である。この患者さんの場合は在宅でなら良いというもの
ではなく、ホームはホットする場、それをつくりあげる事が大切かも。
患者さんの「死にたい」「殺して」と言って居ることは本気なのです。
なぜそう云っているのかを考え、生きているあいだ、生きている今を癒
やすこと。気持ちが落ちつき「ごめんね」「がんばるから」と云われた
時、本人の気持はうれしかったし、がんばろうと思った。はげまされた
気がした。終末が進むにつれ、家に帰りた気持は必ずあるはず、記
憶に過去の思い出があって、今が抜けているから今生きていることは、
良かったねと声をかけてやれるのは看護師さんだけ、そしてこの人がし
てやれたことを、してあげれば良いのではないだろうか。

（第8回）1月19日（土）時間PM16時～19時 場所 前回と同じ

参加者 21名（看護師15名 医師1名 薬剤師 2名 他3名）

提案者 一般主婦 1名 看護助手 1名

子育て中における親子の会話から 子供4歳10ヶ月 保育園児

何げない母と子の対話による心の言葉の大切さを知り、自我の強い自分が相手
に寄り添っていけるように、アドバイスして欲しい。

65歳の母親の発病と介護にかかわる自分について、全ての経験から自分にとり
もどし、いろんな人に助けられ自分なりに生きていくことで、母を看取ること
ができるようにしたい。

講師から - お母さんと生きてきた中で、良かったことも多くあったでしょう。この
ことにふれ思い出をつくっていくことも、貴女には必要ではないでしょうか。

（第9回）2月16日（土）時間PM16時～19時 場所 前回と同じ

参加者13名（看護師5名 元看護師2名 薬剤師2名 福祉師1名）

提案者 薬剤師1名 看護師1名

外来の患者さんのくすりの取り次ぎを行っている時、患者さんからの質問での会

話の有り方、ことばかけの悩みのカウンセリングを受ける。

講師から - 説明は先生に聞き伝える様に、患者の気持ちとしては怖い先生が主であるので、そのことを考えて自分の限界を知ること。 の場合は、訪問看護の時患者さんと交わす時の、自分の気持ちと患者さんの生き方に感動してしまう。まだまだ、この患者さんにつきあう中で、自分が教えられることが、あるのではないか。

アドバイスーずいぶん前とは(2回目提案者)違って、おちついて患者の気持ちをくんでいるように思える。

(第10回)3月16日(土)時間PM16時~19時 場所 前回と同じ

参加者 15名(看護師11名 音楽療法士1名 他3名)

提案者 平和台病院看護師1名

症例 男性 59歳

検温に伺う時に、栄養教室への参加もすすめる。再三の呼びかけをするが、何か茶化されてしまい応じてもらえない。会話のやりとりへのジレンマをうち明ける。

講師から - 患者さんに茶化されていると思いながら会話をしているが、まだコミュニケーションがとれていないことだ。このようなタイプの人、不安がいっぱいで重傷と思いこんでしまう。患者がどこでどうしているか、云える看護師を認識していく。その様な会話をしていくことに、心がけて頑張ってください。

皆様、一年間ご苦労様でした。

平成13年度C T E 最終回でした

参加者からのひとこと

- A)さん あなたのいいところ、本音のところがつうじるのではないだろうか。
- (B)さん 自分を守ること必要ではないか、私もそうすることがある。
- (C)さん この様なところで学んでいると、そのような時職場ではとつする。
- (D)さん この様な会話ができることは、さすが大人の看護師さんだと思った。今の年齢でこれだけ考えられることは、すごいことだと思います
- (E)さん 最初からその日のかとを云ってくれという患者さんはいます。その様に心がける。
- (F)さん 予定がたたないと患者さんは云う。どんな想いで拒否しているのかと考える。
- (G)さん 患者さんに寄り添うことをモットウとしています。好かれるように心がけている。